

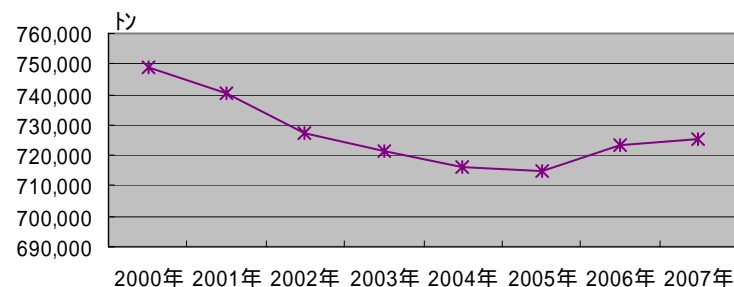
## 2 地球温暖化問題への対応

### 【温室効果ガスの総排出量の削減】

平成 23 年(2011 年)までに、飯田市全体が排出する温室効果ガスの総排出量を、平成 2 年(1990 年)に対しおよそ 10 パーセント削減します。

平成 2 年(1990 年)の発生量	735,000 トン
平成 23 年(2011 年)の目標値	661,500 トン

平成 15 年(2003 年)	721,594 トン	
平成 16 年(2004 年)	716,236 トン	
平成 17 年(2005 年)	715,119 トン	(合併後市域 737,823 トン)
平成 18 年(2006 年)	723,611 トン	(合併後市域 743,332 トン)
平成 19 年(2007 年)	725,631 トン	(合併後市域 747,818 トン)



(分析)

温室効果ガス総排出量の根拠となるデータ(国の公表数値あるいは各種統計など、様々な分野から引用)は、公表が1年遅れであるため、市が把握できる排出量は2年前のものであります。平成 17 年度に合併により市域が拡大しましたが、旧 2 村については基準年のデータがないため、削減目標に対する評価は合併前の市域(合併後市域の排出量を 2005 年の旧市域 / 現市域で按分)で行います。

各種統計による、2007 年の旧市域の総排出量は基準年(1990 年)に比べ 1.3%の減となりました。また、環境モデル都市行動計画の基準年である 2005 年と比較すると、1.5%の増加となっています。目標達成には更なる取組みの推進や工夫が必要とされます。

部門別に見ると、前年との比較では大きな変化はありませんが、民生部門は、平成 19 年度で全体の 35 パーセントを占めており、飯田市全体の温室効果ガスを削減する上でも民生部門の削減が重要となっています。

飯田市の温室効果ガスの変化(単位: CO<sub>2</sub>換算(t))

	基準年 (1990 年)	2000 年 (H12)	2001 年 (H13)	2002 年 (H14)	2003 年 (H15)	2004 年 (H16)	2005 年 (H17)	2006 年 (H18)	2007 年 (H19)	基準年から の増減率	2005 年か らの増減率
二酸化炭素	662,421	698,946	693,029	679,067	664,201	660,185	661,187	667,957	673,208	1.6%	1.8%
メタン	21,154	14,907	14,610	14,193	13,799	12,883	11,534	11,502	11,664	-44.9%	1.1%
一酸化二窒素	23,088	21,859	19,172	20,982	29,828	28,751	26,419	26,443	23,525	1.9%	-11.0%
HFC 等 3 ガス	28,342	13,449	13,571	13,661	13,766	14,417	15,979	17,708	17,234	-39.2%	7.9%
合計	735,005	749,161	740,382	727,603	721,594	716,236	715,119	723,611	725,631	-1.3%	1.5%

2007年(H19)部門別排出量の割合(単位:CO<sub>2</sub>換算(t))

	排出量
エネルギー関連	245
産業部門	252,679
民生部門	258,903
運輸・交通部門	229,035
廃棄物部門	6,956
合計	747,818

